



歯科国試
パーフェクトマスター

歯周病学

高山忠裕・好士亮介・佐藤秀一 著

第2版

令和5年版

歯科医師国家試験出題基準

対応



歯科医師国家試験

合格に

この1冊!



医歯薬出版株式会社

はじめに

歯周病学は歯を支持する歯肉、歯槽骨、歯根膜、セメント質から構成される歯周組織に起こる疾患を扱う学問です。歯肉炎や歯周炎などの炎症性疾患だけでなく、咬合性外傷への対応や咀嚼機能の安定といった咬合に関する内容も含まれます。さらに、歯周病は糖尿病などの全身疾患との関連も示唆されており、全身の健康へも影響します。そのため、歯周治療を理解するためには、口腔内だけにとらわれるのではなく、全身の健康状態や生活習慣にも目を向ける必要があります。

近年の歯科医師国家試験の傾向として、普段行う頻度が高い治療や術式について多く出題されています。また、写真を用いた問題が多く、それらを読み取る力が必要です。さらに、FGF-2製剤を応用した歯周組織再生療法といった新たな治療法や歯科インプラント治療に関連した問題も今後増えていくことが予想されます。

このような傾向を踏まえて、本書では、『臨床歯周病学第3版』、日本歯周病学会が編集している『歯周治療のガイドライン2022』『歯周病学用語集第3版』など、主な教科書・参考書などを参考としています。特に国家試験に向けて必ず押さえておきたい重要項目について、基礎と臨床のつながりや他分野とのリンクを考慮し、国家試験過去問の写真だけでなくオリジナル写真、イラスト、表を用いて簡潔明瞭にまとめました。また、出題範囲を把握しながら、本書の内容と歯科医師国家試験出題基準（令和5年版）を照らし合わせて学習できるように、対応表を付録として入れてありますのでぜひご活用ください。

これから国家試験を受験する歯学生の皆さんにとって、本書が歯周病学に興味を持ちながら継続的な勉強に励み、国家試験を合格するための必須のツールとなれば大変うれしく思います。

2022年5月

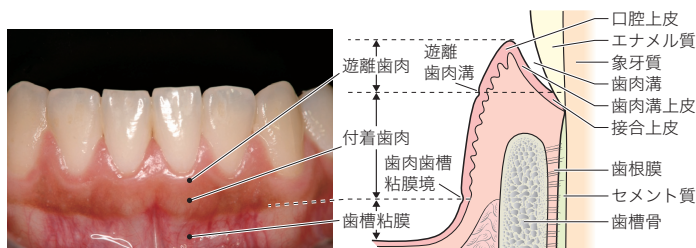
高山忠裕
好士亮介
佐藤秀一

歯周組織の解剖・組織

Check Point

- ・ 歯周組織の構成要素と特徴について説明できる。
- ・ 歯周組織の発生過程について説明できる。
- ・ 生物学的幅径について説明できる。

I. 歯周組織の構造



- ・ 歯周組織とは、**歯肉・歯槽骨・歯根膜・セメント質**の4つから構成される組織の総称である。
- ・ 歯周組織は、肉眼的観察により、**歯肉歯槽粘膜境**を隔てて、**歯肉と歯槽粘膜**に分けられる。
- ・ 歯肉は、**遊離歯肉（辺縁歯肉ともいう）**と**付着歯肉**で構成される。
- ・ 歯槽粘膜は、粘膜上皮，粘膜固有層，粘膜下組織から構成される。
- ・ **歯肉には粘膜下組織は存在しない。**

歯周病の分類と診断

Check Point

- ・ 歯周病の分類について説明できる.
- ・ 歯周病の診断について説明できる.

I. 歯周病の分類

歯周病の分類は、2006年の日本歯周病学会の分類を参考とする。特徴として、分類体系を2段階とし、一次分類としては病態あるいは治療の対象となる症状を中心に病名をⅠ～Ⅶの大分類で構成し、それぞれ中分類（1～3）を設けた。小分類は疾患の範囲による分類とし、広汎型あるいは限局型に分けた。また、歯肉病変（大分類Ⅰ）および歯周炎（大分類Ⅱ）については、病原因子あるいはリスクファクターに基づいた二次分類を行った。



コラム：2018年の新分類

歯周病の新分類について2017年の秋に世界的権威のある歯周病専門医を集めてワークショップが行われ、最新のエビデンスに基づく世界基準の分類を作成し1999年以来の大幅なアップデートが行われた。新分類は、①健康な歯周組織と歯肉病変、②歯周炎、③歯周組織に影響を与える因子、④インプラント周囲疾患の4つのカテゴリーに分類されている。また、歯周炎についてはStage（重症度、範囲、管理の複雑性）とGrade（進行度）で分類することとなった。

さらに、生物学的幅径（→ p.7 参照）という用語は、骨縁上組織付着（supracrestal tissue attachment）に置き換えられた。

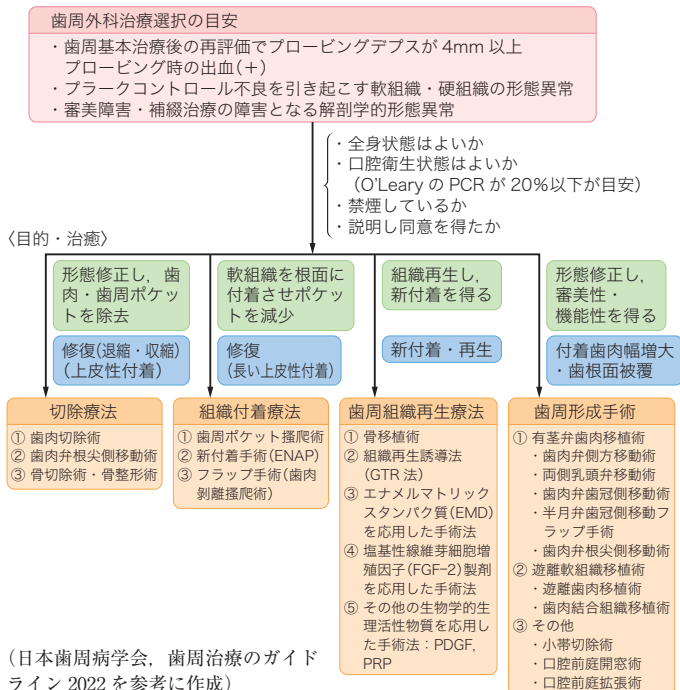
歯周外科治療

Check Point

- ・ 歯周外科治療の分類，適応を理解する。
- ・ 歯周外科治療の基本的な手技，器具を理解する。
- ・ 歯周外科治療の各術式を理解する。

I. 歯周外科治療の適応・条件・分類 よくでる

A 目的別の分類



■必修の基本的事項

大項目	中項目	小項目	本書対応 Chapter
3 予防と健康管理・増進	ウ 予防手段	c 口腔清掃	Chapter 7 p.72～74
4 人体の正常構造・機能	ア 全身・口腔の構造と機能	d 組織(上皮組織, 結合(支持)組織(血液を含む), 筋組織, 神経組織) g 免疫(免疫担当細胞, 自然免疫, 体液性免疫, 細胞性免疫, 粘膜免疫)	Chapter 1 Chapter 2
	イ 全身・口腔の生態系	c プラーク(口腔バイオフィルム)	Chapter 3 p.21～23
5 人体の発生・成長・発達・加齢変化	エ 人体の加齢変化	a 細胞・組織・器官の形態的变化(口腔および顎骨を含む) b 高齢期の生理的特徴	Chapter 2 p.19
6 主要な疾患と障害の病因・病態	ア 疾病の概念	d 炎症	Chapter 2 p.10～15
	イ 口腔・顎顔面領域の疾患と障害の概念	c 歯周疾患	Chapter 5
7 主要な症候	イ 口腔・顎顔面領域の症候	d 歯周組織の症候	Chapter 5
	ウ 全身の疾患に関連する口腔・顎顔面領域の症候	c 急性白血病に伴う症候(歯肉出血など) d 後天性免疫不全症候群(AIDS)に伴う症候(カンジダ症, 歯周疾患, 毛状(様)白板症など) e ウイルス感染に伴う症候(水疱など) g 金属アレルギーに伴う症候 h 糖尿病に伴う症候(口腔乾燥, 歯周疾患など)	Chapter 5
	エ 薬物に関連する口腔・顎顔面領域の症候	a 歯の変色, 歯の形成不全, 歯肉肥大(歯肉増殖), 多形{滲出性}紅斑, 抗腫瘍薬による口腔粘膜炎, 菌交代症に伴う症候, 顎骨壊死, 唾液分泌量減少・増加, 感覚異常	Chapter 5 p.55～56
8 診察の基本	キ 歯・歯周組織の診察	c 歯周組織	Chapter 2 p.15～18
9 検査・臨床判断の基本	オ 口腔・顎顔面の検査	b 歯周組織の検査	Chapter 4